

第9回 淡水ガメ情報交換会

2023年3月18日（土）～19日（日）

外来生物展示センター 会議室（兵庫県神戸市 苅藻島クリーンセンター）

淡水ガメ情報交換会の開催について

日本には外来種を含めるとニホンイシガメ、クサガメ、ミナミイシガメ、ヤエヤマ
イシガメ、ヤエヤマセマルハコガメ、リュウキュウヤマガメ、ニホンスッポン、ミ
シシippアカミミガメ、カミツキガメといった淡水性のカメ類が生息しています。
しかしながら、分布や生態など彼らについてはまだまだわからないことがたくさん
あります。そこで、淡水ガメに関する調査研究の発展、外来種対策や在来種保全対
策の推進に寄与することを期待し、淡水ガメや自然に関わる様々な主体と、大小た
くさんの情報や知見を共有・交換することを目的に淡水ガメ情報交換会を開催しま
す。本交換会は、第1回は2014年2月に神戸で開催され、その後、関東と関西で交
互に年1回開催されてきました。今回も多くの皆様が情報を共有・交換し、有意義
な時間となることを願っています。

プログラム

3月18日（土）

12:00 開場・受付開始
13:30 開会のあいさつ
13:35 公開シンポジウム※
13:50 特別講演（馬淵浩司氏）
14:30 ディスカッション
15:00 公開シンポジウム終了・写真撮影
15:15 各地からの発表※
17:30 終了

3月19日（日）

09:00 開場・受付開始
09:30 各地からの発表※
11:45 昼休憩
13:45 各地からの発表※
16:00 終了

※プログラム詳細は次ページを参照

15:15~16:15

O-01 明石川と共に生きる～淡水ガメ4種～

○永田惇人・西岡龍之介・弓削朱花梨・駒板なみ・大浦結那(玉ーアクアリウム)

O-02 篠山城跡のお堀におけるアカミミガメ防除と南堀のハス復活

○山口達成・岡佳巳(丹波篠山市・農都ささやま外来生物対策協議会)

O-03 兵庫県千種川における淡水ガメの分布

松井博夢・○小森敦介・亀崎直樹(岡山理科大学生物地球学部)

O-04 大正川のニホンイシガメ保全活動は成功したのか？

○西堀智子・久米卓美(和亀保護の会)

ー休憩ー

16:30~17:30

O-05 神戸市明石川流域産ニホンイシガメの飼育および繁殖について

鷺尾尚輝

O-06 動物系専門学校におけるニホンイシガメ域外保全の試み

○小畑敬済(大阪ECO動物海洋専門学校)・谷口真理・三根佳奈子(自然回復)

O-07 県立公園におけるニホンイシガメの保全 武庫川産ニホンイシガメ繁殖にチャレンジ

○松田和美・石丸京子・斉藤義人・松下友士・三橋奈央子・大村貴美子(尼崎の森)

鳥井正男(かめっこクラブ)

O-08 遺伝子解析を行ったニホンイシガメの生息域外保全について

○大澤彰久・馬場宏治(神戸市立須磨海浜水族園)・森一行・齋藤純康(鴨川シーワールド)

9:30~10:30

O-09 静岡のニホンイシガメと宮古島のヤエヤマイシガメについて

○西ヶ谷祐貴(日本体育大学)

O-10 オオサンショウウオとイシガメは共存しないのか

○城代玲志・亀崎直樹(岡山理科大学生物地球学部)

O-11 クサガメとミシシippアカミミガメのバスキングについて

○駒孝太・亀崎直樹(岡山理科大学生物地球学部)

O-12 飼育下におけるクサガメの繁殖生態

○竹田正義(姫路市立水族館)

ー休憩ー

10:45~11:45

O-13 九州南部の淡水ガメについて

○岡杏花・磯部睦美・間日帆里・亀崎直樹（岡山理科大学生物地球学部）

O-14 八塔寺川の淡水ガメ相

○阿部智洸・砂場千奈・岡崎拓也・竹内翔・亀崎直樹（岡山理科大学生物地球学部）

O-15 鳥取県における淡水ガメの分布

守本日南・○川上賢人・亀崎直樹（岡山理科大学生物地球学部）

O-16 アカミミガメとスッポンに生じた皮膚欠損

○中村有加里・深瀬徹（岡山理科大学）

－昼休憩－

13:45~14:45

O-17 効率的にアカミミガメを捕獲するためのかごワナ設置時間帯の特定

○大谷健太郎・岩田高志（神戸大学大学院海事科学研究科）

O-18 篠山城堀の日光浴場に来た生き物たち（センサーカメラを使った調査）

○小嶋心希（神戸海星女子学院高等学校 1年生/自然回復淡水ガメ調査員）

小嶋敏誠（自然回復淡水ガメ調査員）・谷口真理・三根佳奈子（自然回復）

O-19 アカミミガメのワナ捕獲にかかるコスパ比較

○片岡友美・櫻なさ（認定NPO法人生態工房）

O-20 佐鳴湖周辺での淡水ガメの調査・保護・駆除活動

○岩崎海渡（静岡大学）・夏目恵介（昆虫食倶楽部）

戸田三津夫（静岡大学・昆虫食倶楽部）

－休憩－

15:00~16:00

O-21 ニホンイシガメとクサガメの雑種の形態評価：遺伝子情報を考慮した分析

上野真太郎

O-22 石川県の長期的なカメ類群集構造変化と甲府市遊亀公園動物園の池のカメ類

○野田英樹・武井郁（帝京科学大学）

O-23 岐阜市における淡水生カメ類の10年の種構成変化と市版レッド＆ブルーリストの改訂

○楠田哲士（岐阜大学・岐阜市爬虫類部会・レッドリスト等改訂検討委員会）

大野倫太郎（岐阜大学）・矢部 隆（岐阜市爬虫類部会・日本カメ自然誌研究会）

諏佐康子・福永純一（岐阜市環境保全課）

O-24 ニホンイシガメの保全の試みと課題

○谷口真理・三根佳奈子（自然回復）

外来種であることが分かった身近な生き物たち…どうする？

2020年に開催した淡水ガメ情報交換会では、公開シンポジウム「クサガメを知る」を開催しました。古くから日本人に親しまれてきたものの、2011年に外来種であること提唱されたクサガメについて、現在の生息状況や生態、過去の分布についての情報が整理され、少なくとも現在、我々の目の前にいるクサガメは中国や朝鮮半島から持ち込まれた外来種である可能性が高く、日本固有種ニホンイシガメとの交雑による遺伝子攪乱や、カメ類以外の生物への影響等も心配される存在だということが共有されました。それではそのクサガメに対し、我々はどのように対処すべきなのか？在来種とわかってきた生物が実は外来種であったという問題は、カメのそばを泳ぐコイにも共通します。今回は琵琶湖で魚類の調査研究をされている国立環境研究所の馬淵氏にコイの事情について特別講演をしていただき、外来種であることが分かった身近な生物について議論します。



「日本におけるコイの起源—どうする外来コイ」

馬淵浩司氏 国立環境研究所 琵琶湖分室 室長



滋賀県彦根市出身。幼少時から田んぼの用水路や琵琶湖で魚と戯れ、生物学を志し東北大学理学部生物学科へ進学。魚類の行動生態の研究をするため大阪市立大学大学院理学研究科に進み、愛媛県宇和海での潜水調査中に新種の魚（ホシササノハベラ）を発見。魚類分類学を学ぶため京都大学大学院農学研究科に転じ博士号取得。その後、魚類の分子系統学的研究を行うため東京大学海洋研究所で研究員となり、移転・名称変更した東京大学大気海洋研究所の助教を経て2017年から現職。約30年ぶりに滋賀に戻り、琵琶湖と向き合っている。著書に「小学館の図鑑Z 日本魚類館」（分担執筆、小学館）、「黒潮の魚たち」（分担執筆、東海大学出版会）など。



コーディネーター 鈴木大氏 東海大学 生物学部生物学科 准教授

2011年にクサガメの日本列島集団の起源について論文を発表し、クサガメ外来種説を提唱した。カメ屋なのにカメのいない北海道在住。カメ研究や保全に想いを馳せつつ、新たな研究分野開拓を模索中。



外来生物展示センター無料見学できます

外来生物展示センターは今年3月に外来生物問題について普及啓発する施設としてグランドオープンしました。展示ホールと飼育棟があり、どちらも交換会中、無料で自由に見学可能です。この機会に是非ご覧ください。展示ホールは、会議室を出た階段を2階に上り、渡り廊下を渡った先に、飼育棟は、出入口から外に出た駐車場の先にあります！



御亀楽（おきらく）創刊！

資料として配布した「御亀楽」は、淡水ガメに関するあらゆる情報を集約、公開、保存するために、このたび創刊しました。カメに関することならどんなことでも、どなたでも投稿可能ですので、おきらくに投稿ください。なお、次号は、本交換会の発表内容について掲載する予定です。